

議長(上田順康君)順番12、20番 山田君。

〔20番(山田哲弥君)登壇〕

20番(山田哲弥君)通告に従い、一般質問を行います。

新橋本市民意識の調和を目指して、新たなコミュニティづくりについて、市長はどのような施策を考えておられるのか伺いたしたいと思います。

このたび、平成18年3月新橋本市が誕生いたしました。そして4月に木下市長が就任され、新市発展のためにご尽力をいただいておりますが、そこで、平成16年12月に策定されました新市まちづくり計画の中で、新市の将来像について、人々がこれから求める豊かさはゆとりと潤いであると思われまます。ゆとりとは、物質的に満足しているだけでなく、人々が無理のない暮らしができることであり、時間に追われることなく余裕を持って働き、学び、楽しめることと考えます。

また、潤いとは、市民一人ひとりの個性や能力が尊重されること、人と人との関係が好ましいものであること、人を包む自然環境や都市環境の質がすぐれたものであることなどから生まれるものと考えます。

私たちは、このような人々のゆとりと潤いが生れることを新市の発展と考え、美しい自然や魅力ある歴史、文化資源などを背景に、人と人との支え合いや交流によって生活の質を高めていくことができるまちを目指しますとうたわれております。

新市発展のために、重点施策については多種多様の施策が考えられますが、私はまず市民意識の調和を目指して、新たなコミュニティづくりの努力を怠ることが大切であると思

いますが、市長はどのような施策を考えておられるのか、お伺いしたいと思ひます。

以上です。

議長(上田順康君)20番 山田君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長(木下善之君)登壇〕

市長(木下善之君)山田議員の、市民意識の調和のとれたコミュニティづくりということについてお答えをいたしたいと思います。

今日社会の社会構造というものは非常に大きな変化がございまして、本当にこの間秋田でしたか、ああいう凶悪な事件等も非常に気にかかるところでございます。この問題については、大変大切な重要な質問と私も認識してございます。

さて、新橋本市の市民意識の調和を目指す施策についてでございますけれども、新市まちづくり計画において、その方針が示されております。まちづくりの方針としては、日常的な助け合いや地域での話し合いなど、さまざまな場面のコミュニティ力を高めることによって、互いに信頼し、安心できる地域社会の形成に努めますとあります。

市民の自治意識の高揚とまちづくりの積極的な参画を促進するため、行政における情報を市民と共有するとともに、市民との協働を推進するための環境整備に取り組むとしてい

ます。ここで職員の出番でございまして、職員は自分ところの地域の先頭に立って頑張っていく役割も大きく果たしていかなければならないということをお認めしてございまして、今後、この方針に基づき、平成18年度から平成19年

度の2カ年に新市の長期総合計画を策定して、各事業を進めてまいります。計画中の事業として、市民病院循環バスの高野口ルートの運行がございます。現在、関係機関及びコミュニティバス検討委員会において協議を行っているところでございますが、運行が開始されますと、交通手段のない方の通院や買い物などの利便性の向上はもちろんのこと、市民間の交流の推進につながると期待をいたしております。

その他、新市まちづくり計画におきましても、自主的コミュニティ組織の育成、市民参画システムの確立、地域づくり基金を活用した交流事業の実施、さらにハード事業として、市民自治と交流を推進するための拠点としての集会所の再配置、保育環境の充実と整備、さらに地域間の交流を進めるための幼保一元化及び保育所の統廃合、適正配置などに取り組み、新市の一体感の醸成に努めてまいりたいと考えております。

ある方が、市民参画と協働のまちづくりについて、こう言っておりましたのは、愛郷の精神である。そこにはどちらかが命令するか、突き上げるというイメージではなく、ともに参画するという考え方なのである。そうになると、お互いが生き生きと楽しく仕事ができるようになる。だれもが楽しい場所であってこそ、ふるさとと呼ぶのにふさわしいのである、とされております。

現在、本市で取り組んでいる花と緑のリサイクル事業については、ごみの減量化を通じて、橋本市に住んでいる人や橋本市を訪れた人の心がいやされるような花いっぱいのもちづくりを目指す事業ですが、この事業の一つでございますオープンガーデンコンテストに市内全域から応募をいただいております。

7月の市報にも出てまいります。今後このように全市民共通の目標に向けて、参加で

きる事業を数多く展開し、旧橋本市、旧高野口町という考えではなく、すべての市民がふるさとと言える橋本市となるよう努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（上田順康君）20番 山田君、再質問ありますか。

20番 山田君。

20番（山田哲弥君）新橋本市民意識の調和を目指して、新たなコミュニティづくりについて市長よりご答弁いただきました。その中で、新市のまちづくり計画の基本方針に基づき、平成18年から19年、2カ年かけて、長期総合計画書を作成していきたいというお考えでございます。

そういったことで、それぞれ各その計画に基づいて事業を進めてまいりたいと言われておられますが、これらの諸施策、市長が具体的に、もう少し市長のほうから、どういった施策を考えておられるのか、一例でも、よかったらご披露願いたいと思います。

議長（上田順康君）山田君の再質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）山田議員の再質問にお答えを申し上げたいと思います。

非常に、コミュニティづくりというのが幅広いことでございますし、基本的には、長期総合計画のその中に盛り込んで、充実したものにしたいと思っておりますが、私、日ごろ考えております点について、若干、これはまだ課内でも検討はいたしてございませんが、試案でございますが、地域で、できれば私、90近くの字が高野口、橋本であるわけでございますけれども、一つの字で何か一つを創作いただくようなコミュニケーションを図れる場所づくりというんですか、地域づくりの中で。

例えば、児童生徒の皆さん、そうしてまた老人会の皆さん、一般の皆さん、一堂に会して、その地域でそれぞれの集会所とかを利用して寄っていただいて、そして市から若干のそういうコミュニティ推進の基金を積んで、そこから取り崩して、できればひょうたんをつくるのもいいでしょうし、運動会をするのもいいでしょうし、また稲作の米を、もち米をつくってもちまきを村を挙げてやるのもいいでしょうし、まあ何百種類、もっとあるでしょう。そういうものを本当に幼児からみんなが寄って、みんなの力で何をするかということ投げかけて相談していくと。そういうことが非常にこれからの時代にいいのでは、ふさわしいのではないかな。

しかも、それでできたものは商工業まつりなんかで、各字の全部成果をずっと展示していく、そのことがまた産業祭りに、全市民が紀ノ川まつりをしのぐような秋の祭りにならないかなというぐらいに実は考えておるんです、例えばの話でございますけども。

それをやっぱり自分らで何をつくるか。市からこう言われたので、しないところはいいですよ。しかし、できるだけ全域にわたって何か。そうしたら、運動会なんかは無形なものでございますので、有形でありますけど、商工業まつりには出てまいりませんから、そこへは写真なんかを展示していくということもあるでしょうし、一回そういうことを考えの一端、答弁には十分ならなかったかもわかりませんが、今後さらに検討して、魅力あるコミュニティづくりに市として励んでまいりたいと思っております。よろしくご指導をお願いいたします。

議長（上田順康君）20番 山田君。

20番（山田哲弥君）今、市長のほうから、ビジョンというか、試案というんですか、そういったお考えを述べていただいたわけでご

ざいますけども、今答弁いただきましたことについて、1日も早く最善の努力をしていただきまして、お願いしたいと思っております。

それとともに、要望といたしまして、住民の要求に適合し、地域コミュニティといった形で、地域のコミュニティの核となるような生活関連施設の適切な配置と整備を行っていただき、健全な住民の活動を通じて、市民の融和を図っていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

以上で終わります。

議長（上田順康君）これをもって、20番 山田君の一般質問は終わりました。